

## 職業実践専門課程の基本情報について(2016)

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東京YMCA 医療福祉専門学校	平成8年2月23日	八尾 勝	〒186-0003 東京都国立市富士見台2-35-11 (電話) 042-577-5521			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 東京YMCA学院	昭和56年5月8日	理事長 徳久俊彦	〒135-0014 東京都江東区石島3番15号 (電話) 03-3645-7171			
目 的	<p>生きるために他人の手を必要とする人々を直接支える介護福祉士には、専門知識や技術だけでなく、常に笑顔と優しさをもって人に接することのできる豊かな人間性が求められます。</p> <p>カレッジスピリットの「互いに愛し合いなさい」に基づき、私たちが忘れてはならない優しさや思いやりをもった介護福祉士を養成します。</p>					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉	社会福祉専門課程	介護福祉科	昼2年制	2,106 単位時間 (又は単位)	あり	なし
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	900 単位時間 (又は単位)	450 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	456 単位時間 (又は単位)	300 単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	99人	7人	8人	15人		
学期制度	■1学期：4月1日～9月30日 ■2学期：10月1日～3月31日 ■3学期：			成績評価	■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について 科目の認定基準は、3分の2以上の出席と科目認定試験で6割以上の点数をとる評価はA～D	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月20日～8月31日 ■冬 季：12月21日～1月5日 ■学 年 末：3月22日～4月9日			卒業・進級条件	該当学年の必修科目および実習が修了認定されている	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から本人と保護者へ連絡をとり、状況を把握した上で、適切な指導を行う。定期的な連絡も欠かさない。			課外活動	■課外活動の種類 石巻ボランティア 国際協力街頭募金 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 特別養護老人ホーム、老人保健施設</p> <p>■就職希望者に占める就職者の割合※ 94.1% (48人/51人)</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※ 92.3% (48人/52人)</p> <p>■その他（任意）</p> <p>※(平成27年度卒業者に関する平成28年4月時点の情報)</p>	主な資格・検定	介護福祉士
中途退学の現状	<p>■中途退学者 9名 ■中退率 9.1%</p> <p>平成27年4月1日在学者 99名（平成 27年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者 90名（平成 28年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 体調不良、学業不振、実家の破産</p> <p>■中退防止のための取組 教員によるチューター制度、カウンセリング、グループ活動による支え合い</p>		
ホームページ	URL: <a href="http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/">http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

授業でカバーすべき範囲を定めるのはある程度指定科目の条件の中にあるものの、業界の求める最新の知識技術やこれから必要となってくるトピックの採用には、最先端の現場で活躍している者の意見に耳を傾け、実際の授業やカリキュラムに反映していくことが必要と考える。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
八尾 勝	校長
倉持有希子	介護福祉科学科長
上松 剛	作業療法科学科長
望月太敦	卒業生（介護福祉科）、杉並区立重症心身障害児通所施設わかば 園長
小檜山修平	卒業生（作業療法学科）、東京リハビリ訪問看護ステーション
白井幸久	東京都介護福祉士会会長、群馬医療福祉大学教授
三沢幸史	東京都作業療法士会副会長、多摩丘陵病院リハ科科長

### (開催予定日時)

第1回 平成28年8月23日 19:00～20:30

第2回 平成27年9月23日 19:00～20:30

### (教育課程編成委員会議事録の公表方法)

URL: <http://tokyo.ymca.ac.jp/>

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学校で学んだ知識と技術を実習先で実践することにより、現場での即戦力となれるプロの介護福祉士を目指す。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
実習Ⅰ	利用者、家族について知る。またいろいろな種別の施設があることを知る。多職種協働や関係機関との連携について理解する。	デイケア、グループホーム、障害児・者施設、小規模多機能
実習Ⅱ	利用者の生活における必要な情報収集を行い、自立支援の視点から、介護計画を立て、適切な介護が実践できる。	特別養護老人ホーム、老人保健施設

## 3. 教員の研修等

### (教員の研修等の基本方針)

教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な能力、資質等を向上させるために実施することを基本とする。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
小泉 昌広	医療法人社団陽和会コートローレル介護科長、卒業生 (介護福祉科)
永井 純	北原国際病院病院事務長、作業療法士、卒業生 (作業療法学科)
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会 顧問
吉野 たけし	学識経験者 (二葉ファッションアカデミー校長)

(開催予定日時)

第1回 平成28年10月7日 19:00~20:30

第2回 平成27年11月7日 19:00~20:30

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://tokyo.ymca.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://tokyo.ymca.ac.jp/>

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			人間の尊厳 と自立	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援全体像を理解する。	1 通	30		○		
○			人間関係とコ ミュニケーション	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要なコミュニケーション能力を養う。	1 前	30		○		
○			社会の理解 I	介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。	1 前	30		○		
○			社会の理解 II	介護保険や障害者自立支援法を中心に、基礎的な知識を養う。	1 後	30		○		
○			手話 I	聴覚障害者の理解を深め、手話の基本を身につける。	1 通	30		○		
○			手話 II	昇格障害者の体験談を聞き、手話で簡単な福祉に関する会話ができるようにする。	2 前	30		○		
○			家政学実習 (栄養・調理)	バランスの良い食事とは何か。食べる人の状況を考え、献立を作り、調理ができるようにする。	2 通	60			○	
○			生活法学	法体系、相談窓口などの基礎的理解を深め、生活者の視点からの法体系のあり方について学ぶ。	2 後	30		○		
○			特別教育演 習 I	介護福祉士教育だけではカバーできない周辺分野の講師を招き、幅広い知識を身につける。	1 後	30			○	
○			特別教育演 習 II	幅広い分野の専門家を招き、それぞれの専門に応じた内容を学ぶ。	2 通	30			○	

○			就職実践演習 I	福祉専門職として必要な職業観、就労観、社会人としての基盤となる教養を身につける。	1 後	30			○	
○			就職実践演習 II	一人一人の学生が自分の将来を見据えて就職活動ができるようになる。	2 前	30			○	
○			学習支援演習 I	学習情報の提供、学習方法の提示、学校からの情報提供など総合的に学生を支援する。	1 通	60			○	
○			学習支援演習 II	学生の学びへの意識を維持向上するための学習支援を行う。	2 通	60			○	
○			いのち演習 I	死をめぐっての「生」「いのち」について考え、死生観を深める機会とする。	1 前	20			○	
○			いのち演習 II	介護福祉士の立場を軸とし、さまざまな視点から「いのち」をめぐる問題について考える。	2 後	10			○	
○			介護の基本 I	尊厳を支える介護、自立に向けた介護について理解する。	1 前	30			○	
○			介護の基本 II	社会における介護問題を基に介護福祉士としての職業倫理について考える。	1 前	30			○	
○			介護の基本 III	介護を必要とする人を、生活の観点から捉えるための学習。	1 後	30			○	
○			介護の基本 IV	リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	1 後	30			○	
○			介護の基本 V	リハビリテーションの考え方、実際を理解し、他職種協働やケアマネジメントの仕組みを理解する。	2 前	15			○	
○			介護の基本 VI	グループワークを行いながら、他職種連携及び、地域との連携を理解する。	2 後	45			○	
○			コミュニケーション技術 I	介護におけるコミュニケーションの基本を学ぶ。	1 前	30			○	

○			コミュニケーション技術Ⅱ	利用者のみならず、家族に対する実践的なコミュニケーション能力を養う。	2前	30		○		
○			生活支援技術1 (生活支援)	適切な介護技術を用い援助できる知識を修得する。	1前	30				○
○			生活支援技術2 (居住環境)	安全で自立した快適な生活環境の諸条件とその整備について学習する。	1前	30				○
○			生活支援技術3 (移動)	演習を中心に、体位変換、車いすへの移乗等の技術と知識を学習する。	1前	30				○
○			生活支援技術4 (食事)	障害と生活文化を踏まえた食事介助ができるようにする。	1後	30				○
○			生活支援技術5 (身じたく)	足浴、洗髪、衣服の着脱等を自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。	1後	30				○
○			生活支援技術6 (排泄)	排泄に関する基本技術を学習した上で、障害や生活の状況に合った介護を実践していく。	1後	30				○
○			生活支援技術7 (入浴・清潔保持)	自立に向けた清潔保持の方法と根拠を理解し、実践できるようにする。	2前	30				○
○			生活支援技術8 (家事)	家事の介助の技法を学び、自立に向けた家事の介助の技法を学ぶ。	2後	30				○
○			生活支援技術9 (睡眠)	睡眠障害に関する原因を理解し、アセスメントに関する知識を深める。	2前	30				○
○			生活支援技術10 (終末期)	介護福祉士として遭遇するであろう、人生における終末期の理解と看取りについて考える。	2後	30				○
○			介護過程Ⅰ	情報収集・分析・解釈に基づき介護内容の方法を計画、実施、評価する一連の過程を理解する。	1前	30		○		

○			介護過程Ⅱ	事例を提示して、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際。	1 後	30		○		
○			介護過程Ⅲ	事例を提示して、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際。	1 後	30		○		
○			介護過程Ⅳ	事例を提示して、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際。	2 通	60		○		
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行う。	1 通	60			○	
○			介護総合演習Ⅱ	実習Ⅱの意義、介護課程の展開方法を学ぶ。卒業研究作成と発表。	2 通	60			○	
○			介護実習Ⅰ	様々な利用者を知り、理解する。チームの一員として介護福祉士の役割について理解する。	1 通	208				○
○			介護実習Ⅱ	利用者の生活を理解し、必要な情報を収集し、実際に介護過程を展開する。	2 通	248				○
○			発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達、老化に伴うところとからだの変化を理解する。	1 前	30		○		
○			発達と老化の理解Ⅱ	高齢者の心理、高齢者に多い症状・病気について理解する。	1 後	30		○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得する。	1 後	30		○		
○			認知症の理解Ⅱ	認知症の方への適切な関わり方を習得し、また必要とされる生活環境を理解する。	2 前	30		○		
○			障害の理解Ⅰ	障害のある人の心や身体機能に関する基礎的知識を習得する。	2 前	30		○		
○			障害の理解Ⅱ	障害のある人の心や身体機能に関する基礎的知識を習得する。	2 後	30		○		



○			こころとからだのしくみⅠ	人間の基本的なこころのしくみ、からだのしくみを理解する。	1 前	30		○		
○			こころとからだのしくみⅡ	身支度における適切な技術と知識を身につける。食べるために必要な身体と機能を学習する。	1 前	30		○		
○			こころとからだのしくみⅢ	入浴、清潔保持、排泄に関連する人体の構造と機能を理解する。	1 後	30		○		
○			こころとからだのしくみⅣ	睡眠と死にゆく人のこころとからだのしくみを理解する。	2 前	30		○		
合計				52 科目	2,106 単位時間 ( 単位)					